

## 卒論のテーマ

『インターネットコミュニティ参加者の属性と人間関係との関連性』

### 1. 卒論の目的

ギコぼいでの他者との関わり方は、他者を誹謗中傷する・しない、メールアドレスの交換やオフ会への参加をする・しないなど、利用者によりさまざまである。また、配信をする・しない、配信をきく・きかない、チャットをする・しないなどギコぼいの利用の仕方多彩である。このようにギコぼいでの他者との関わり方や利用の仕方には、住人間で多くの違いが見られる。

本稿の目的は、この他者との関わり方・利用の仕方の違いを、住人の年代・性別・職業などといった属性との関連性を持つか、という観点から調査することである。調査はアンケートを用いて行なった。

また、他者との関わり方や利用の仕方は、住人のギコぼいに対する考え方とも結びつくため、それについてもアンケートにより調査し、併せて考察した。

調査は、ギコぼい一般のみで行なった。

### 2. 仮説

ギコぼいでオフ会に対し肯定的な人は、現実世界での友人関係に不満がある人が多いのではないと思われる。現実世界での友人関係に対する不満から、ネット上のギコぼいという場を共有する人と友人関係を満たそうとしているのではないだろうか。また、ギコぼいで恋人をつくることに肯定的な人に関しても、現実世界での恋愛関係に不満があり、ギコぼいでそれを求めているという人が多いのではないだろうか。

なお、今回の調査はこの予想を検証するためのものではなく、あくまでも他者との関わり方・利用の仕方と属性との間に関連性があるかを考察するための材料として行なったものである。

### 3. 方法

アンケート調査は、回収する段階で回答者を特定できない方法として、インターネット上のアンケート作成サイトを用いて行なった。使用したのは「Mr.アンケート」というサイトである。このサイトは、個々の回答データを CSV 形式でダウンロードできる。

調査を行なう上で、まずは調査対象の全体数が必要となる。そのために、ギコぼいのユークアクセス数を参考とする。一般・ジュニア・International を合わせたギコぼい全体

の月間ユニークアクセス数は約 20 万アクセスであり、1 日あたりのユニークアクセス数は調査していないが、数千人のアクセスがあると予想される、とのことである。本稿では一般のみをとりあげているため、全体数はジュニアと International のアクセス数を除いた数となる。また、アンケートの実施期間・時期により、調査期間内に数千人のアクセスがあるとは考えにくい。以上の理由から、本稿での調査対象の全体数は、約 500 人から、多くても約 2000 人程度ではないかと推測される。

アンケート実施期間は、2008 年 12 月 30 日～2009 年 1 月 4 日である。アンケートの協力依頼は、ステージ人数が 0 人ではないステージすべてを回り、ログで卒論のテーマとしてギコぼいを取り上げることがを説明し、アンケートの URL を出して協力をお願いするという方法をとった。実施時間帯は、夜 0 時前後～明け方付近と昼 12 時前後である。これは、ギコぼいの総ログイン人数は夜 0 時前後が最も多いように見受けられるためと、日中は夜間に比べて総ログイン数は少ないが夜間とは利用者層に違いがあると予想されるためである。他に、ログインして最初に来る場所である「開発局通り」「学校通り」や、その時間帯に一番人数の多いステージなどで、卒論の説明とアンケートの URL を出しておくことにより、なるべく多くの人々がアンケートの存在を知り得る状況を作った。また、事前に卒論でギコぼいを取り上げるためアンケートを実施することを住人に告知する、回答してくれた人にギコぼい内の知り合いに URL を教えて協力してもらうようお願いしてもらう、などにより、協力を依頼する時間帯にログインしていない人などにもアンケートに協力してもらえるような措置をとった。

## 資料 1 アンケート

問 1 は回答者の積極性と回答の信頼性に関する質問、問 2～12 は属性に関する質問、問 13～19 は他者との関わり方と利用の仕方に関する質問、問 20～24 はギコぼいに対する考え方に関する質問、問 25 は自由記述欄となっている。各問で「その他」を選択した場合は、問 25 に具体的な内容を書いてもらうようアンケートの説明に記述した。

## 4.結果

回答者数は 120 人であった。その内 10 人が、明らかに矛盾した回答、すべて黙秘で回答、すべてその他で回答をしていた。これから提示するデータは、その 10 人の回答も含む。全体数が 500～2000 人であるため、この回答者数では確実性のある結論を出すには多少不足している。これは信頼性に欠けるものでもなく、傾向把握の参考にはなり得るだろう。

回答数はその回答を選択した人数である。複数回答可の質問、記述形式で回答する質問では、回答数の合計が 120 になるとは限らない。

選択形式の質問では、回答数が 0 人であった項目は除外してある。問 22～24 は回答が多

岐に渡るため、回答を系統別に分類した。問 25 の自由記述欄は、120 人の内 68 人が何らかの記述をしており、こちらも回答を系統別に分類して記載した。回答数の合計は 68 になるとは限らない。

## 資料 2 結果

### 5.反省点

本調査の欠点としては、まずアンケートの URL は開いたが回答しなかった人の総数がわからないという点が挙げられる。全部で 25 問と長いものであるため、URL を開いたが面倒になり回答しなかったという人がいても不思議ではない。問 1 でアンケートに対する姿勢を問うならこの点も調査したかったが、アクセスカウンターなどもなく調査方法がなかった。卒業論文のためにアンケートを実施していることは住人に伝えたが、回答への影響を考慮し卒業論文の詳しい内容などは伝えていなかったことも、アンケートに対する気構えが個々によって異なってしまいう原因となってしまうだろう。また、実施期間の短さも欠点として挙げられる。アンケートの実施期間は 6 日間であったため、毎日ギコぼいに来ている住人の回答が多くなるのは予測できる。問 13 のギコぼいに来る頻度での回答の偏りは、この影響も少なからずあるだろう。アンケート実施時期も年末年始であったため、属性に偏りが出てしまったのではないかと思われる。

アンケート内容の反省点としては、回答者の心的抵抗に対する配慮が足りなかったという点が挙げられる。属性に関する質問が回答者にとってやや答えにくい内容であったことや、私自身に対する信頼性の問題など、回答者が答えやすい状況をつくることができなかった。これは、属性に関する質問での「黙秘」の回答数が、他者との関わり方と利用の仕方に関する質問でのそれよりも多かったことから見て取れる。また、各問で「その他」を選択した場合には問 25 の自由記述欄に内容を記述するようアンケートの説明に記述したが、「その他」を選択した人の中で内容を記述したのは 3 人だけであった。アンケートの使用許諾なども併記してあったために回答者が見落としていた、読んだのだが面倒で書かなかった、などの原因があると思われる。説明をよく読むように明記する、「その他」の回答方法を変える、などの措置が必要であった。

アンケート実施後に、質問項目にいくつか不備があることに気づいた。まず、問 9 のネット生活への満足度および問 10 の現実生活への満足度の質問で、「可もなく不可もなく」という項目を入れるべきだった。問 11 のネット暦と問 12 のギコぼい暦の質問では、回答方法を記述形式にしたために、回答者によって「5 年くらい」「2000 年 4 月から」など回答がまちまちになってしまった。結果として提示する際に年数に計算しなおして記載したが、たとえば実際にはギコぼい歴が 2 年半でも、「2 年」と記述した人がいるという可能性もある。回答方法を選択形式にするべきだった。問 13 のギコぼいに来る頻度の質問の「月に数

日以下」は、「以下」ではなく「未満」とすべきであった。問 16 のギコばい外で連絡をとるかの質問では、「交換」以外に「一方的に知っている」「一方的に教えている」という項目も必要だった。

### 資料 3 考察

## 6.結果の考察

考察を行なう上で、各問で「その他」と回答し、具体的な内容を記述していない場合は、無回答扱いとし除外する。また、「黙秘」の回答も、内容が不明であるため除外して考える。

まず問 1 のアンケートに対する姿勢を見てみる。「真面目に取り組みたい」は計 76 人、「真面目に取り組むつもりはない」「そもそも協力したくない」は計 21 人だった。有効な回答をした 103 人の約 74%が「真面目に取り組みたい」と回答しており、あくまで参考程度であるが、アンケートの内容は信頼に足るものと思われる。回答者の積極性は、「積極的に取り組みたい」が計 64 人、「気乗りしない」「そもそも協力したくない」が計 39 人と、約 62%がアンケートに対し積極的な姿勢を見せている。

回答者の男女比は、男性 75 人、女性 26 人で、およそ 3:1 であった。これがそのままギコばい全体の男女比であるとは言えないが、ギコばい利用者は女性よりも男性のほうが多いのではないかと予想できる。

回答者の年齢は、10代が 31 人、20代が 49 人、30代が 19 人、40代が 3 人、70代が 2 人であった。70代と回答したうちの 1 人は、他の質問項目で明らかに矛盾した回答をしている。もう 1 人は、アンケートに対する姿勢で「そもそも協力したくない」と回答しており、また性別・学歴・居住に関する質問では「その他」と回答し具体的な内容を記述していない。よって、この 2 人の 70代という回答はネタ回答であり、本当の年齢ではないと予想されるため、除外して考えても差し支えないと思われる。回答者の年齢はその他・黙秘を除くと 10代～40代であった。有効な回答をした人の約 48%が 20代であり、ギコばい住人の半数は 20代であると予想できる。

次に職業を見てみる。(資料 3 )回答者の中で、「その他」と回答し「高校生(単位制)」と記述した人が 1 人おり、職業を 2 つ選択した人は 6 人だった。結果の「高校生(全日)」～「浪人」に「高校生(単位制)」を加えたものを「学生」、「建設業」～「フリーター」を「社会人」とし、職業を 2 つ選択した人はどちらか一方に分類しなおした。なお、「学生」と「社会人」の 2 つを回答した人が 2 人いたが、両者とも「学生」として分類した。「主婦 or 主夫」と回答した 2 人はどちらも女性だったため、「主婦」と改めてある。その他・黙秘は除いてあり、回答数の合計は 98 人である。

「学生」と「社会人」の人数はほとんど変わらないことがわかる。ギコばい住民の学生と社会人の比率はほぼ 1:1 であり、どちらかに偏りがあるとは少なくとも本調査の結果から

は言えないのではないだろうか。

次に、最終学歴を見ていく。(資料3) 職業で「高校生(全日)」と回答した人で、最終学歴を「高校卒」と回答している人や「中学卒」と回答している人などがおり、最終学歴の解釈の仕方が人によって異なっているように見受けられた。「浪人生」と回答した人が「高校卒」「その他」と回答している場合もあった。なので、まずは高校生・高専生は「中学卒」、浪人生は「高校卒」として、最終学歴を職業ごとに分類してまとめなおす。高校生や高専生であっても、最終学歴が「その他」「黙秘」である場合は除外する。大学や専門学校は、たとえば大学卒で大学生であっても、卒業後に再び入学したということも考えられるため、そのまま記述する。回答者の合計は98人である。

学生を除いた回答者の最終学歴は、(資料3)の通りである。回答数の合計は、98人から学生56人を引いた62人である。職業を「黙秘」「その他」と回答した人も含む。

次に、誰と暮らしているかである。「親族はいるが縁を切っている」と回答した人が1人いたが、70代と回答したうちの1人であり他の質問項目で明らかに矛盾した回答をしている。よってこの回答も除外して考えて差し支えないだろう。家族・家族以外と同居しているのは73人で約61%であり、過半数が誰かと一緒に生活しているということになる。

健康状態は、まず「黙秘」「その他」以外のすべてを選択した人が1人いたためこれは除外して考える。82人が「健康である」と回答したが、その内10人が他に何らかの回答を選択しており、「健康」のみを選択したのは72人である。「健康」以外を回答した10人を含め、「黙秘」のみや「その他」のみを選択し具体的な内容を記述していない場合を除外すると、健康以外の何らかの回答をしたのは35人であり、回答者の約33%が健康上の何らかの問題を抱えていると回答した。この35人のうち、「精神疾患の診断を受けている」と回答したのは11人であり、全体107人のうちの約10%である。

次に、能力と実績である。「能力も実績も特にない」「気にしたこともない」が他の回答よりも多いが、飛び抜けて多いわけではなく、全体での能力と実績については偏りが見られなかった。しかし、職業との関連性で見ると、多少の偏りがあるように見受けられた。能力と実績の回答を職業ごとにまとめたものが(資料3)である。職業で「主婦」「黙秘」「その他」と回答している人は除外してある。

「能力も実績もある」と「気にしたこともない」では社会人がそれぞれ約64%、約63%と過半数を占めている。「能力はあるが実績はない」では学生が68%である。「能力はないが実績はある」「能力も実績も無い」では学生と社会人での偏りは見られなかったが、無職の人の回答が「能力も実績も無い」に集中している。

では次に、ネット世界と現実世界の満足度を、現実世界でのそれぞれの満足度とネット世界でのそれぞれの満足度を対比・比較して見ていく。(資料3) ネット世界での友人関係の満足度で、「満足」「不満」の両方を選択した人が2人いたが、それは除外してある。

ネット世界の満足度と現実世界の満足度は、概ね同じ傾向を示しているのが見て取れる。現実世界で「友人関係に不満」と回答した人では、ネット世界は「満足」と回答した人の

ほうが多かった。しかし回答数が少ないため、友人関係のみ逆の結果を示した、とは言いがたい。

以上は、ギコばい住人の属性に関する項目である。ここからはギコばい住人の他者との関わり方、利用の仕方の項目を考察していく。

まずはトリップの有無である。トリップを付けているのは 71 人、付けていないのは 38 人であった。トリップの有無は、属性との関連性に目立ったものはなかったが、高校生・高専生のトリップ使用率が多いように見受けられた。高校生・高専生以外と比較するため、(資料 3 )のようにまとめた。トリップの有無および職業で「その他」「黙秘」と回答している人は除外してある。

高校生・高専生 21 人のうちトリップを付けているのは 17 人であり、高校生・高専生の約 81%がトリップを付けているということになる。他の職業の合計では 74 人中 45 人であり、割合にすると約 61%である。高校生・高専生のトリップ使用率は、他の職業よりも高いということが言える。

ギコばい外で連絡をとるかどうかを見ていく。何かしらの連絡手段を持っていると回答した人のなかで「ギコばい外では一切連絡をとり合っていない」を選択した人が 3 人、「黙秘」を選択した人が 1 人いた。この 4 人は除外して考察する。「黙秘」のみと「その他」のみの 13 人も除外するため、回答者数の合計は 103 人である。「メッセージアドレスを交換している」と回答したのは 78 人で全体の約 76%であり、メッセージアドレスの交換がギコばいでは一般的なことであることがわかる。メッセージアドレスだけでなく、それ以外も交換している人は 58 人である。ここで、「携帯電話の番号を交換している」「自宅の電話の番号を交換している」と回答した人に注目する。どちらか、もしくは両方を回答したのは 40 人であり、全体の約 39%であった。メッセージアドレスやスカイプ ID などは、誰でも自由に取得・変更できるものであり、携帯電話のメールアドレスも変更することは可能である。しかし、携帯電話や自宅の番号は容易に変更できるものではないため、かなり親密な関係が形成されてなければ交換できるものではないと思われる。よって、ギコばい住人の約 3 分の 1 は、他者とかなり親密な関係性を形成できていると言えるのではないだろうか。この 40 人については、属性との関連性は見られなかったが、32 人がトリップを付けているというデータが得られた。親密な関係となる上で、他者からの信頼を得る手段のひとつとしてトリップが機能しているのではないかと思われる。また、「ギコばい外では一切連絡をとり合っていない」と回答したのは 21 人だった。そのうち、問 21 のギコばいにくる理由で「友達がいるから or 友達ができたから」と回答したのは 1 人だけであった。このことから、ギコばいで他者と親密な関係を形成する上で、メールアドレスなどの交換が重要な意味をもつと考えられる。これは、現実世界で親密な関係を形成する場合と似ているのではないだろうか。ギコばい外で連絡するかどうかと属性との関連性は、今回の調査では見受けられなかった。

オフ会をどう思うかは、まず予想の検証をする。「オフ会に参加したことがあり、今後も

積極的に参加したい」「オフ会に参加したことはないが、してみたい」と、オフ会に肯定的な回答をした人に関して、それぞれ現実世界での友人関係の満足度と比較する。(資料3)

「参加したことがあり今後も参加したい」と回答した29人の中で、現実世界の友人関係に「満足」と回答したのは10人、「不満」と回答したのは3人だった。予想とは異なるどころか、むしろごくわずかな差であるが予想とは逆の結果を示している。「参加したことはないがしてみたい」と回答した33人についても、「満足」が8人、「不満」が3人という結果であり、予想に反していた。

次に、恋人をつくることをどう思うかの予想を検証する。「どうでもいい」「全面的に反対」以外の各回答について、それぞれ現実世界での恋愛関係の満足度と比較する。(資料3)

恋人をつくることをどう思うかも、オフ会と同様に予想とは異なる結果が示され、関連性は見出せなかった。

これらの結果は、問20のギコばいの知り合いと現実世界の知り合いとどちらに親しみをを感じるかということとも関係していると思われる。有効な回答108のうち、最も多い回答は「どちらも同じくらい親しみをを感じる」で40人、次いで多いのは「両者は別物であり、比較できるものではない」で37人である。これは、住人のギコばいでの人間関係に対する考えが、現実世界と同等のものかまったく別のものであり、現実世界の延長や変わりなどではないということの表れである。また、「現実世界の知り合いのほうがより親しみをを感じる」と回答した18人のうち、オフ会をどう思うかで「参加したことがあり今後も参加したい」「参加したことはないがしてみたい」と回答した人が9人と半数であることから、上記のような考えが伺える。

オフ会と恋人をつくることをどう思うかは、それぞれ属性との関連性は見られなかった。

では次に、住人のギコばいに対する考え方を考察していく。住人がギコばいに来る理由を、回答数が多い順にまとめなおしたものが(資料3)である。

最も多かった回答は「配信を聞くのが楽しいから」であり、120人中約半数の59人が選択している。配信機能は、他のチャットサイトなどにはあまりない機能であり、誰でも気軽にできるものであるため、ギコばいの中心的要素と言ってもよいだろう。次いで多かった回答は「他よりも面白い・楽しい人がいるから」であり、回答数は55人であった。これらのことから、住人の約半数は娯楽性を求めてギコばいに来ていると言える。他には「友達がいるから or 友達ができたら」という回答が多く、ギコばいでは友好的な関係が多く築かれていることが表れている。また、「他よりも雰囲気がいいから」と回答している人も多い。「雰囲気」の解釈は人によってさまざまと思われるが、2ちゃんねるのキャラクターを操作できること、ギコばい全体が「街」を形成していること、住人間で友好的な関係が築かれていることなどを総合したものだろう。「配信をするのが楽しいから」「チャットをするのが楽しいから」「他よりもコミュニケーションがとりやすいから」など、他者とのコミュニケーションに関する項目を選択した人も多かった。

以上のことから、ギコぼいの魅力は「配信機能」「面白い住人・楽しい住人」「全体的な雰囲気」「他者とのコミュニケーション」であると言えるだろう。配信機能は配信する住人がいないと成立しないものであり、ギコぼいがギコぼいであるためには住人の1人1人の存在が重要な意味をもつと言える。コミュニケーションに関しては、チャットサイトであるため当然のことかもしれないが、文字だけではなく音声でもコミュニケーションが取れることや、名無しさんで利用可能であること、キャラクターを操作して仮想現実の世界に自身を投影できることなど、コミュニケーションがとりやすい環境ができていると言えるのではないだろうか。

次に、ギコぼいの良かったこと、悪かったこと、今後ギコぼいに望むことを考察していく。

**(資料2 問22)**

良かったこととして最も多かったのは「さまざまな人と出会えたこと」「交友関係が広がったこと」などの回答であった。また、次いで多かったものが「配信機能の存在」であり、ギコぼいに来る理由と同様の結果が得られている。

**(資料2 問23)**

悪かったこととしては「特定の人物への叩き・誹謗中傷があること」「荒らしがいること」の回答が目立った。住人の多くが、穏やかな関係性を求めていることが見て取れる。しかし、「男女の出会いを含む過度の馴れ合い」「一部の住人の内輪化・グループ化」を挙げている人もおり、あまり親密すぎると否定的に思われてしまうこともあるようだ。また、「特になし」と回答している人が比較的多いことにも注目したい。誹謗中傷や荒らしの存在は明確であり、悪い点として多く挙げられている。しかしそれにも関わらず、現状に満足しており悪い点は特にないとする人も多く見られたということは、非常に興味深い。

**(資料2 問24)**

今後のギコぼいに望むことでは、「現状維持」「存続」を挙げる人が最も多かった。悪い点として誹謗中傷・荒らしなどの存在などを挙げる人は多かったが、今後望むこととして誹謗中傷・荒らしなどの減少を挙げる人はあまり多くなかった。この原因はいくつか考えられる。例を挙げると、

誹謗中傷・荒らしなどは好ましくないものであるが、ギコぼいに限ったことではないので特に減少して欲しいとは思わない、と考えている人が多い。

誹謗中傷・荒らしなどは好ましくないものであるが、その存在も含めてギコぼいである、と考えている人が多い。

誹謗中傷・荒らしなどは好ましくないものであり減少して欲しいが、それ以上に今後のギコぼいに望むことがあったため記述していない。

などである。これらはいくまでも推測であるため、実際はまったく異なる原因かもしれない。原因を探るには、より詳細に調査する必要があるだろう。



## 7.結論

本稿の結論としては、今回の調査結果からは、ギコぼい住人の他者との関わり方・利用の仕方同士での関連性は見られたが、属性と他者との関わり方・利用の仕方との間には関連性は特には見られなかった、となる。しかし、調査方法や内容が不完全なものであるため、方法や内容、調査期間などを変えれば違った結果が得られ、何らかの関連性が見出せた可能性は十分にあるだろう。

不完全な調査ではあったが、住人のギコぼいに対する考え方や、彼らが何を求めてギコぼいに来るかなど、さまざまな結果が得られたため、多少有意な調査であったと言えるのではないだろうか。

著者：びざお

PDF 変換及び Web への掲載者：BAR ギコっぼい ONLINE 管理人 IIII

Web への掲載日：2009 年 3 月 21 日